

能登半島地震・被災者支援プログラムの報告（第 20 回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024 年 9 月 4 日（水）～9 月 7 日（土）

■ボランティア参加者数：16 名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
9 月 5 日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	8 名
9 月 5 日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	21 名
9 月 5 日（木）	穴水町中居地区 住吉公民館	14 名
9 月 5 日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	12 名
9 月 6 日（金）	穴水町志ヶ浦地区 志ヶ浦コミュニティセンター	20 名
9 月 6 日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	36 名
9 月 6 日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会所	32 名
9 月 6 日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	38 名

■被災者の声（主なもの）

- ・初めてサロンに来たけど、こんなに人が集まっているとは思わなかった。みんなで同じものを食べるのでも、こうやって話しながらだと楽しいね。やっぱり人と話さないとな。
- ・釘を打つ機械、庭木を切る機械などいろいろ買っているとすぐにお金が無くなっちゃう。旦那がもういないから家のことはみんな一人でやっているの。
- ・仮設住宅のタンスが小さくて夫と 2 人分の服が全部は入らない。物を取りに行く時だけ自分の家に帰るがそのたびに悲しくなる。2 年で解体が終わるって話だけど熊本地震も長く仮設に住んでいる人がいたし、私達もすぐには直らないだろう。
- ・田んぼの基盤整備をやっており、棚田を他の田んぼと繋いで一つの田んぼにして機械化し、未来の世代につなげたいと考えている。日本の風景 100 選に選ばれた美しい棚田を今後取り戻していく。
- ・一番困っていることは何？とよく聞かれるが、ありすぎて答えられない。今後の生活設計が不安。自宅が全壊で今は何も考えられない。
- ・自衛隊の大きい仮設風呂が撤退して悲しい。仮設住宅の風呂は狭くて使いづらいが贅沢は言えない。たまに親戚にもらい湯をしている。
- ・能登鹿島駅の近くには白い彼岸花が咲くのよ。
- ・昔はたまに星空が綺麗だなあと見上げることがあったけど、最近はないねえ。地割れなどが気になって下ばかり見て歩いているから。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・被災者の方が炊き出しのお手伝いに行っていて、「自分は被災者だから支援を受ける側」という意識がないことに驚いた。みんな地元が大好きで、強いコミュニティがあると感じた。
- ・サロン開催時だけではなく、チラシを配布しながら地元の方と話をするのも大切な役目だと思った。

